



学校だより

# 「至誠」

防府市立松崎小学校

第16号

令和3年7月6日

## ＜不審者対応避難訓練を開催しました！ ～20年前の池田小事件を思う～＞

6月に不審者対応避難訓練を実施しました。警察OBの、スクールガードリーダーの内田様、柳様、そして、少年安全サポーターの藤村様にお越しいただき、不審者侵入に対する松崎小学校教職員の「動き」、児童の避難の様子を評価していただくとともに、訓練終了後に体育館で防犯教室を開催していただきました。

南門から侵入した不審者に気づいた用務員の矢野さんが常岡教頭先生に連絡し、教務主任の森重先生が運動場にいる子どもたちを教室に誘導しました。教頭先生から生徒指導主任の森先生に連絡し、森先生から、放送で児童への避難指示と男性教員の集合指示を行いました。専科の先生たちは児童棟に不審者が入らないように手分けして施錠し、事務の鶴見主査は110番の訓練通報を行いました。

最後には、西側昇降口で、男性教員が4本の刺股を駆使して不審者を取り押さえました。刺股を使うことも、人を道具を使って押さえ付けることも、普段行うことのない行動です。訓練の機会が貴重だと感じました。

訓練の後の「防犯教室」では、「いかのおすし」の確認、不審者に声をかけられたときの対応を学びました。3人の児童が代表で体験しましたが、不審者と距離をとることも、「助けて」と声を出しながら走って逃げることも、防犯ブザーを鳴らすこともできていました。

日本のほとんどの小学校で、不審者対応避難訓練や防犯教室が行われるようになったことには、平成13年6月8日に起きた、**大阪教育大学附属池田小事件**が大きく関係しています。学校に包丁を持った男が侵入し、8名の児童が亡くなり、

13名の児童と2名の教職員が負傷した事件です。業間の休み時間になったばかりの学校に侵入した犯人が、最初にすれちがったのは、偶然にも、犯人が最初に侵入した学級の担任でした。**この時、「不審者かも知れない。」と考える声をかけていけば防げたかも知れません。**また、私は以前、当時、池田小で6年生を担当し、現在、校長として勤めておられる真田 巧校長先生とお話をしたことがあります。真田先生の「当時、6年生の担任で、3階で授業をしていたため、1階で大変な事件が起きていることに気づけなかった。」「気づいた後も、何をすればよいのか、どの順番で行うのか。分からないことばかりだった。」といったお話は今も忘れていません。附属小学校ですら、校内の緊急連絡体制が整っていなかったのです。池田小の悲劇を繰り返さないために、事件後、不審者対応避難訓練は全国の小学校で行われるようになりました。

見知らぬ来校者には声をかける。来校の際には事務室の受付を通ってもらう。刺股を設置する。防犯カメラを設置する。様々な点で見直しと改善が図られるとともに、いい加減にならないように、毎年、不審者対応避難訓練を続けています。

